

卒業を迎えて

保川有梨

皆さまこんにちは。こちらに来てからあっという間に1年が経ちました。先月13日に無事、大学院のプログラムを終了し、卒業することができました。

7月半ば頃から最終プログラムが架橋に入り、私は学校とタックを組んだプロジェクトに取り組み、留学生支援をより活性化させるためにSNSを用いた支援体制を構築しました。また、生成AIが公立学校に導入される未来をリサーチに基づいて予期するプロジェクトなど、多様な分野のプロジェクトに関わることができ、一層力をつけることができたように感じています。先月の卒業式では、皆の晴れ晴れとした様子が印象的でした。



(写真：卒業式の様子)

卒業してから就職活動に一層力を入れ、現在は毎日の応募とネットワーキング、ボランティア活動が日課になっています。1ヶ月ほど活動が続けて感じることは、厳しい中でも光があるということです。人によって、レジメの提出でインタビューにたどり着いたり、ネットワーキングを通して人と知り合う中で仕事を紹介していただいたりと、状況は様々ですが、私は応募を通して、自分に合う方法を探りながら就活ができるようになってきました。時間がかかってもカバーレター

を丁寧に書く、教育の背景からEdTechやインターンを行っていたエネルギー関連の会社を中心に応募する、どんなイベントにも顔を出して知り合いを増やす、などを通して、数社からお返事をいただき始めることができました。ここまでの道のりは長く、先もまだ遠く、くじけることも何度もありました。ただ、この活動を通して、困難が成功に変わらなくとも、その状況を当たり前として受け入れ、困難を楽しめるようになることができたことは成長であると、自信をもって言うことができます。アメリカはやりたいと思ったことを受け入れてくれる風潮がありますが、その分実力社会で厳しい面もあります。会社から解雇にあった友人や就職活動の厳しさを体感して、実力主義を体感しましたが、その分、厳しさは強さになり、未来につながるという希望も新たに感じました。光がまだ見えないときこそが自分を成長させる期間であり、その連続が人生を変えるのだと思います。ここでの学びを人のために活かしたいという思いを胸に、光を目指してこれからも楽しみながら尽力していきたいです。

ロータリークラブの活動では、Daniel Joraanstadさんより交流会にお招きいただき、新しい会長のSunnyさんにもお会いしたりと、交流を深めることができました。また、UCデイビスに留学中の大口カロリーナ南さんと一緒にバイエリアにある日本のコミュニティのボランティアに参加したりと奨学生間で交流を深めることができたのは、



(写真：日本人コミュニティボランティアの様子)

ロータリーなしにはあり得なかったことだと思います。このご縁を大切に、今後も育んでいきたいと思っています。無事1年を終え、卒業することができたのはロータリーの皆様のご支援があっただといつも感謝をしております。良いご報告ができましたら、またお伝えしたく思っております。引き続きどうぞよろしく願いいたします。